

豊村てつや市議会レポート

最長在任期間を目指す市長のマニフェストとは？

市史編さん、新市庁舎整備に目途をつけるべき

(3月5日付盛岡タイムス)

現職マニフェスト巡り議論

盛岡市長選で市議会

～議会後4月にも公表予定

開会中の盛岡市議会 3月定例会で、次期市長選における現職の谷藤裕明氏のマニフェストをめぐる議論があった。

豊村徹也氏(創盛会)は4日の一般質問で、次期市長選におけるマニフェスト公表時期をただすとともに、新市庁舎整備などにめどを付ける内容にすべきと指摘。谷藤市長は、マニフェストについて「今議会にもさまざま提案させていただいている部分も含まれているので、議会終了後を予定している」と、4月にも公表する考えを示した。

豊村氏は、次期市長選で谷藤氏が5選を果たした場合、歴代市長で最長となる北田親氏の19年6カ月を超える20年間の在任期間となると説明。「20年間の最長の市長になろうとするならば、盛岡市の大きな課題にめどを付けるようなマニフェストを出すべきだと思

う」と指摘。具体的には市史編さん、新市庁舎の整備にめどを付けるべきとした。

歴代盛岡市長

代	市長名	当選回数	在任期間
1	目時 敬之	(任命制)	1889. 5~1894. 3
2	清岡 等	"	1894. 3~1901. 10
3	関 定孝	"	1901. 10~1906. 5
4	北田 親氏	"	1906. 5~1907. 11
5	大矢 馬太郎	"	1907. 11~1910. 8
6	北田 親氏(再)	"	1910. 12~1928. 12
7	堀合 由巳	"	1929. 1~1929. 3
8	中村 謙蔵	"	1929. 5~1934. 6
9	大矢 馬太郎(再)	"	1934. 6~1939. 7
10	見坊田 鶴雄	"	1939. 9~1943. 9
11	二見 直三	"	1943. 4~1946. 10
12	小泉 多三郎	2期	1947. 4~1952. 6
13	二見 直三(再)	1期	1952. 7~1953. 12
14	山本 弥之助	3期	1954. 2~1965. 1
15	吉岡 誠	1期	1965. 2~1969. 2
16	工藤 巖	3期	1969. 2~1979. 9
17	太田 大三	4期	1979. 9~1995. 9
18	桑島 博	2期	1995. 9~2003. 9
19	谷藤 裕明	4期目	2003. 9~

豊村てつやプロフィール

昭和29年4月25日 一関市生まれ
 48年3月 盛岡一高卒業
 54年3月 成蹊大学法学部卒業
 54年4月 岩手県信連入会
 平成15年3月 同上退職
 15年5月 盛岡市議会議員
 27年8月 同上四選
 27年9月~29年9月 副議長



平成31年3月現在の主な役職と連絡先

山岸三丁目町内会会長	[総務部長 深倉尚充	662-2690]
山岸地区町内会連合会会長	[事務局長 松田善春	663-2766]
山岸地区福祉推進会会長	[山岸児童・老人福祉センター	625-3601]
	[山岸地区活動センター	663-2505]
	[山岸老人憩いの家	663-6221]
加賀野交番連絡協議会理事	[加賀野 交番	624-5396]
市消防団第6分団後援会副会長	[第6分団 屯所	622-3406]
岩谷稲荷神社責任役員	[神社社務所管理人 大弓三郎	652-5443]
(社福)東部偕興会理事	[山岸保育園	623-6976]
(社福)小原慶福会理事	[養護老人ホーム清和荘	624-0533]
(社福)岩手県同胞援護会理事	[くろいしの保育園	662-9123]
(NPO)WaiWai-ぐるんば理事	[地域活動支援センター	661-7018]
盛岡市公園愛護会副会長	[盛岡市公園みどり課	651-4111]
JR山田線ファンクラブ会長	[ふくろう亭	662-3249]

谷藤市長は、新市庁舎整備について「市の中枢機能として重要な施設であり、建設場所や規模、機能が今後のまちづくりに大きな影響を与えることから防災拠点施設としての機能を含めた十分な検討を踏まえ、広く市民の意見を聞き、早期整備に向けて取り組む」とした。

新庁舎の整備場所としては、矢巾町移転後の岩手医大跡地も候補に挙がっている。「医大の跡地の問題も大変重要な課題だと捉えているが、いずれ人の用地なので今の段階で私からどうだこうだとは申し上げる段階にはないが、有力な候補地の一つだとは思っている。都南との合併の時のいきさつの中で盛南地区ということも記されている。そのへんとの関係も含め総合的に判断したい」とした。

市史編さんについては「年史部分については（次期在任期間での完成は）可能かと思うが、市史編さんとなると相当なボリュームになるので、これからの委員会を控え、どれくらい調査を要するかによると思うが、できるだけ早めに完成できるような体制にしたい。」とした。（以上、新聞記事の引用）……………

★年史編さん関係

＜盛岡市史の発刊については、昭和45年以降中断されており、その記述内容は昭和30年頃までのものとなっている＞

○平成25年3月議会での質問

昭和45年以降、岩手国体開催に伴う道路整備、東北縦貫道、東北新幹線等高速交通時代への対応、盛岡南地区の大規模開発、盛岡駅西口を初めとする広範囲を対象とした土地区画整理事業、クリーンセンター・ゆぴあす、マリオス、中央卸売市場、市立病院などの建設工事、高松から移転した盛岡競馬場オーロ

パークの建設と岩手競馬の経営危機など、盛岡市として進めてきた事業について、どのように歴史的な総括をしてきたのでしょうか。平成4年の都南村との合併、そして特例市への昇格、平成18年の玉山村との合併により中核市へと、盛岡市は都市として大きく変貌を遂げてきておりますが、こうした大きな節目においてこそ、過去の歴史を総括すべきではなかったのかと思料されます。谷藤市長の御所見を伺います。

○平成30年3月議会において、創盛会の村上議員は「我が会派の豊村議員は、平成25年3月議会、平成27年6月議会の2回にわたり、盛岡市政の歴史を総括し、後世への指針、また未来への方向性を見きわめていくためにも、昭和45年以降中断されたままになっております盛岡市史の発刊への質問をしております。私も都市化の中で、地域の成り立ちや変遷を物語る文化的遺産や地域の現状を後世に伝えるための取り組みが求められていると思います。」と質問。

これに対して谷藤市長は「市史編さんに当たっては、関連資料の収集や刊行形態、発刊に向けた組織編成など、さまざまな準備や検討が必要であります。昭和前期から既に半世紀が経過しておりますので、市制130周年を契機として実施できるよう、前向きに検討してまいりたい。」として、本年3月議会において新年度に年史編さん室の設置し、年史編さん委員の選考に入る、とした。

★市庁舎整備関係

○平成22年9月議会での質疑

豊村：県都盛岡、県庁所在都市で、恐らく盛岡市の庁舎は横綱クラスの古さ。こういった

水漏れがあちこちで起きてくるような状況では、これは県庁所在都市の市庁舎としては本当に恥ずかしい限りだと思う。以前土地代含めて199億円という試算がされていますが、全部借金できるわけではなく、100億円ぐらいは積んでいないと新市庁舎建設は不可能。

財政調整基金に積むのもいいが、来年度からでも、例えば10カ年計画くらいで100億円を積み立てるとかに着手をしないと、本当に笑い物になるような状況かと思えます。

市長就任時には、基金はほぼ底をついて、なおかつ市庁舎もぼろ、そしてこの市庁舎建設基金もゼロというような中、大変な御苦勞をなさったと思いますが、ぜひ早期に積み立てに着手をしていただきたい。

市長：今耐震から進めて、またライフライン等がどの辺まで傷んでいるのかも含めて調査しなければならぬと思えますが、いづれ頑張っても恐らく20年延命できるかどうかかな、と思っています。できれば次年度からでもそういうものに踏み込んでいけるような、20年計画くらいで見ないと、場合によっては厳しいところもあるかもしれませんが、その辺の状況を見ながら次に備えていきたい。今は「ぼろは着ていても心のしきで頑張る」ということでいきたいと思えます。

⇒翌年度から毎年2億円の積立を開始

市庁舎建設等基金の推移 (単位:百万円)

基金名	平成29年度	平成30年度 見込み	平成31年度 予 算
財政調整基金	7,891	7,291	6,114
市債管理基金	308	306	304
公共施設等整備基金	2,881	2,906	2,270
市庁舎等建設基金	1,435	1,643	1,851
その他特定目的基金	641	565	559
合 計	13,156	12,711	11,098

○平成30年9月議会での質疑

豊村：市役所本庁舎が防災拠点として問題があることは、平成11年9月の村田芳三議員の一般質問でも取り上げられており、「本庁舎の電気の受電設備、配電設備が全部地下に入っており、自家発電装置も地下にあることから、水をどうやって防ぐかを考えなければならない。水没イコール行政機能が停止して、盛岡市民は大騒ぎになる」との指摘に対して、「土のうを積んで浸水を防ぐ、災害本部を都南庁舎に移す」などと回答しているようですが、この状況は19年を経た現在でも同様の状況にあります。(注：市庁舎は防災マップ上、浸水想定区域にある)

市役所本庁舎は、建物の老朽化や庁舎の分散化に伴う非効率性に加え、災害時の防災拠点として不適格な立地にあり、移転、新築問題について早急に結論を出す時期にあると考えますが、谷藤市長の御所見を伺います。

市長：現在の本庁舎は、本館につきましては平成22年度から25年度まで耐震補強工事を行い、別館については浸水等により非常用大型自家用発電機が稼働しなかった場合の対策として、26年度に太陽光発電設備を屋上に設置したほか、30年度には配管改修工事を行うなど、機能維持を図ってきたところでありますが、老朽化や分散化、来庁者の利便性のほか、防災機能の面でも課題があり、加えて東北の拠点都市としての都市機能の充実強化の面でも、重要な課題として本格的に考えなければならない時期に来ているものと存じております。

今後、所要財源の涵養を図りつつ、官公庁一団地の役割との関係や、岩手医科大学移転に伴う跡地利用の検討状況も踏まえながら検討を進める必要があることから、新庁舎建設

に当たっては、多くの市民の皆様の声も広く聞きながら判断してまいりたいと存じます。

豊村：この非常用大型自家発電機が稼働しなかった場合、太陽光発電云々とありますが、この非常用大型自家発電機というのは本庁舎の何%くらいをカバーできるような発電能力があって、逆にこれが水没して稼働できなくなった場合、この太陽光発電はどのくらい賄うことができるのでしょうか。

総務部長：自家用発電機は、燃料としてA重油を使っており、72時間、3日間稼働した場合に約4,500ℓほどかかると。地下のタンクが1万5,000ℓのA重油の残量があり、単純計算でその日数は燃料さえあればもつということになりますが、ただ機械の性能上連続使用には、調整・点検が必要になり、現時点ではまず3日はもつと、全庁舎の執務室の電気あるいはコンセント関係はもつというふうに見ております。

それから、太陽光発電については、電源供給されるのは別館4階の会議室のみで、仮にずっと天気がよくて電力が十分に供給されるといった場合、約40キロワットアワーが供給できるということになります。ただ、会議室で日中、通常の業務と違いますので、災害対策本部等を設置した場合、まず1日はもつ、天気がよければその連続で丸1日はもつと試算しています。

豊村：太陽光発電は別館4階の会議室だけということで、ほとんどバックアップにはならないように私は受け取りました。

そこで、市庁舎の移転、新築については、これだけ災害が多くなってきた昨今、従来の都南庁舎に災害対策本部を移して、などというようなことでは万全な対応ができるとは到底思えませんので、早く具体的な計画を明示すべきと思いますが、いかがですか。

市長：防災面についてもそのとおりですが、所要財源の確保、少なくとも頭金分ぐらいは積み立てておかないと。医大がいよいよ平成31年9月には引っ越すことになり、それを含めて総合的に考える時期には来ていますが、**財源が伴う話**でもあり、今後、研究していく必要があろうと思っております。

豊村：いわゆる総合防災センターの中に市役所本庁舎と県庁が入るといふ災害対策絡みの発想をしていく必要があります、財源についても**総合防災センターであれば、別途財源が確保**できる可能性もあるのではないのでしょうか。

市長：国でも様々な災害の発生から、災害本部機能をしっかりしていく必要があるという視点が出てきており、**国の財源支援や、県との合築等も含めて検討していく段階**には来ているかな、と思っております。

[豊村徹也の連絡先:自宅]

〒020-0004 盛岡市山岸三丁目23-10 TEL・FAX 019-661-4124 携帯 090-5185-0308
E-mail: t-toyomura@ictnet.ne.jp <http://www.livable-yamagishi.jp> (うえぶ山岸)



※当レポートは政務活動費により作成しています。